

## 宮沢哲男教授・宮入興一教授退職記念号によせて

経済学部長／経済学会会長

沈 徹

宮沢哲男先生と宮入興一先生は、2012年3月末をもって愛知大学経済学部を定年退職され、同年4月1日付で両先生とも愛知大学名誉教授に就任されました。愛知大学経済学会では、両先生の多方面にわたる数々のご功績や私たちがこれまでに両先生より賜った学恩に対して、敬意と感謝の意を表すため本号を両先生の退職記念号として刊行することにいたしました。ここに謹んで本号を両先生に献呈する次第です。

宮沢先生は、1964年3月に東京教育大学理学部地学科地理学専攻を卒業後、1966年3月に同大学大学院理学研究科地理学専攻修士課程を修了され、1973年3月に博士課程を単位取得満期退学されました。その後同年5月に教養部に専任講師（人文地理担当）として就任され、本年3月までの実に39年もの長きにわたって本学の発展に多大な貢献をなされました。この間、1976年に助教授、1983年に教授に昇進され、本学の改組転換により1998年からは経済学部にも所属されました。

研究面では、宮沢先生は、水収支と河川および地下水の水質分析など、水文学と総称される分野の研究を精力的に進められてきました。その成果としてこれまで、単著である『豊川流域の水文環境』（1999年、岩田書院）のほか、共著5編、学術論文45編を公刊されています。学会活動としては、日本地理学会など4学会に籍を置かれ、日本水文科学会機関誌「ハイドロロジー」の編集委員（1987～89年）を務められました。

教育面での宮沢先生のご功績にも特筆すべきものがあります。共通教育科

目のほか、文学部地理学専攻の自然地理学に関わる専門科目および大学院の講義と演習科目を担当され、教室での講義だけでなく、水に関わる計測技術を学生たちに現場で教授されるとともに、論文の指導も担当されました。

また宮沢先生は、科学館主任、連絡教授会委員、教養部副部長、(旧名古屋校舎への)移転本部長、学生部委員会委員長、教養部長など、数々の要職を歴任され、本学の運営にも心血を注いでくださいました。文字通り、本学の支柱を支えていただいたと言えるでしょう。

他方、宮入興一先生は、1964年3月に埼玉大学文学部文学科経済専攻を卒業後、三菱銀行での勤務を経て、1975年3月に大阪市立大学大学院経済学研究科修士課程を修了され、1979年3月に博士課程を単位取得満期退学されました。その後同年4月、宮入先生は財政学、地方財政論担当の専任講師として長崎大学商業短期大学に着任され、1982年に助教授、1989年に教授へと昇進し、1997年からは長崎大学経済学部の教授に就任されました。本学に財政学担当の教授として着任されたのは2001年4月のことです。その後本年3月まで在職されましたので、宮入先生の在職年数は11年ですが、教育研究面でも大学運営面でも、年数では説明できない多大なる恩恵を本学にもたらしてくださいました。

宮入先生の専門分野は地方財政学における住民自治を規範とする制度設計にあり、特に自然災害に関する事前的・事後的財政制度の在り方に関する研究は、この分野での第一人者として高い評価を受け、これまで著書34冊、論文72編を発表されてきました。学会においては、日本財政学会理事、日本地方財政学会理事、日本租税理論学会理事を歴任されています。

教育面での宮入先生のご功績もまことに顕著なものがあります。学部では財政学、地方財政学などを担当されるとともに、大学院では、34名の大学院生の論文指導を担当し、そのうち9名がすでに税理士資格を取得するなど、数多くの俊英を世に送り出していっしょいます。

また、在職11年の間に、大学院経済学研究科長、大学評議会委員、大学

院長などの要職を歴任されるなど、本学の運営にも大きく貢献されました。とりわけ、大学院に対してのご貢献は絶大なものがあります。

以上、本記念号の刊行にあたり、宮沢、宮入両先生のご功績を簡単に紹介させていただきました。両先生のご健勝と一層のご活躍を祈念する次第です。